

[公益6] この法人の事業に対する理解の普及

6-1 機関誌の発行、情報公開

<事業計画>

公益目的事業について理解と協力を得ることを目的に、全国の大学及び関係機関に向けて機関誌「大学教育と情報」の発行とインターネットによる情報発信を行う。また、全国の大学関係者に理解の普及を拡大するため、オンライン方式で全地域の大学・短期大学の関係者、賛助会員に事業活動報告交流会を実施する。

<事業の実施結果>

「事業普及委員会」及び「事業普及委員会翻訳分科会」を継続設置して、機関誌の発行、海外情報の選定・翻訳、インターネットによる情報公開・配信・意見収集を通じて、本協会が実施する公益目的事業について理解の普及を行った。以下に、委員会の活動状況について報告する。

事業普及委員会、翻訳分科会

事業普及委員会は、2023年(令和5年)4月15日、5月23日、7月26日、9月12日、10月27日、12月12日、2024年(令和6年)1月30日、3月14日に平均6名が出席し、8回開催した。公益目的事業の理解普及を推進するため、3か月ごとに年間4回の機関誌「大学教育と情報」の発行とホームページで情報公開を行った。

(1) 機関誌「大学教育と情報」の発行

6月、9月、12月、3月の4回に亘り、80頁の規模で私立大学を中心に全国の大学・短期大学、文部科学省・関係団体、賛助会員を対象に、以下の方針で平均1回当たり約6,800部発行した。

- ① 公益目的事業に対する理解の促進を図るため、事業の活動報告に加えて、国や関係機関の審議動向、マスコミ報道などを踏まえて、時宜に合ったインパクトのある情報を「特集」として提供した。

特集では、6月号と12月号で「学びの質向上に向けたICT活用の取組み(その1)、(その2)」として、時間・場所の制約から高い自由度で学びの環境を改善し、質の向上が期待できるICT活用の授業改善の取組みをとり上げた。

9月号では、「生成AIへの対応」として文部科学省における教学面の取扱いなどを参考に学生がAI社会の中で主体的に活動していけるよう、大学教育に大きな変革が迫られていることの重大さを振り返る機会とした。その上で、令和6年3月号では「生成AIを活用した授業等の紹介と今後の授業の在り方を考える」として、学びを効果的に支援する授業の在り方を模索することにした。

- ② 数理・データサイエンス・AI教育を奨励するため、令和4年度に文部科学省が認定した先導的で独自の工夫・特色を有するリテラシーレベル「プラス」の教育プログラム3件の取組みを6月号に掲載し、9月号と12月号には、令和4年度に初認定の「認定教育プログラム(応用基礎レベル) プラス」、3月号には令和5年度に認定された教育実践の取組みを「数理・データサイエンス・AI教育の紹介」として、(その1～その3)などのように掲載することにした。
- ③ 事業活動報告では、公益目的事業の実施結果及びその他事業の情報化投資額調査の集計結果を掲載した。また、私情協ニュースでは、イベントの開催情報、情報関連補助金の要望情報、法人情報、事業の実施日程等を適宜報告することにした。

以下に、2022年度に4回発行した機関誌「大学教育と情報」の主な目次を掲載する。

大学教育と情報 (2023 年度 No.1 : 令和 5 年 6 月)

- ・巻頭言「SiU グローカル・スマートキャンパス 2024」構築を目指して
～BYOD と VDI の導入 (2023 年度) について～ 佐々木重人
 - ・特集 学びの質向上に向けた ICT 活用の取組み (その 1)
 - 「オンラインでオープンに学び合う全国規模の法律討論会『インターカレッジ民法討論会』」 高嶋英弘
 - 「オンラインと対面を融合した観光地・ホテルとの産学連携授業」 吉田雅也
 - 「主体的で深い学びに向けた Google フォームの活用」 森 泰三
 - 「オンデマンド授業を応答的に進める LMS の活用」 木下 勇
 - 「大規模公開オンライン講座 (MOOCs) を活用した双方向授業」～留学代替プログラムからの試み～ 鈴木夏代
 - 「基礎化学実験における LMS を活用したハイブリッド授業とデータサイエンス導入の試み」
 - 「理解度向上を目指した反転授業とゲーミフィケーションの実践報告」 池裕也、小川熟人
 - 「演習でオンラインを活用して「場の力」を創出する」 金野祥久
 - 「LMS で行う確認テストと振り返りによる基礎知識の定着と自発的学修の継続」 谷口友帆
 - 「統計分析ソフト R を用いたデータサイエンス学習における ICT の活用とルーブリック評価」 穴田有一
 - 「学習分析ツールを活用した機械系専門科目の反転授業」～予習活動の可視化とその効果～ 西 誠
 - 「ICT ツールを用いて調布市と南部町における『空き家活用』の可能性を探る」 角田和巳
 - 「ハイブリッド授業における双方向性を向上させる授業方法」 高橋 亮
 - 「ICT を用いた Team-Based Learning の実施方法」 由良 亮
 - 「ICT を用いた多職種連携の試み～歯科と栄養学科の大学間合同授業～」 茂泉(吉名)佐和子
- ・数理・データサイエンス・AI 教育の紹介 大久保真衣
 - 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」選定校
 - における教育実践取組みの紹介(その 5)
 - 「弘前大学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」～グループワークとデータサイエンスを融
 - 合した課題解決学習と岩木健康増進プロジェクトでのデータの利活用～ 真太郎、玉田嘉紀、徐 颯哲
 - 「群馬大学における数理・データサイエンス・AI 教育の取組み」
 - ～数理データ科学教育研究センターによる全学教育～ 青木悠樹、鈴木裕之
 - 「ものづくり技術者のための『GIKADAI 数理データサイエンス AI 教育プログラム』」 後藤仁志
- ・私情協ニュース 「2023 年度事業計画書」など
 - ・事業活動報告 「2022 年度 産学連携事業実施報告」
 - ・募集

大学教育と情報 (2023 年度 No.2 : 令和 5 年 9 月)

- ・巻頭言「自ら考え、動く」人材育成のための基盤教育 瀬口和義
 - ・特集 「生成系 AI への対応」
 - 「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて(周知)」の経緯と取扱いの観点 文部科学省高等教育局専門教育課
 - 「進化を続ける AI と人間 どう向き合えばいいのか」 佐藤一郎
 - 「生成 AI の到来にどう向き合うか」 太田邦史
 - 『自分の頭で考える』ための ChatGPT」 坂村 健
 - 「言語生成 AI は外国語教育に何をもたらすか？」 金丸敏幸
 - 「生成 AI の教育利用と著作権侵害等に対する注意点」 高嶋英弘
 - 「ChatGPT と自力英語を適切に使い分け、これまでにない発信活動を」 山中 司
 - 「本協会『生成系 AI 使用ガイドライン』の紹介」 私立大学情報教育協会
 - ・数理・データサイエンス・AI 教育の紹介
 - 「『数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(応用基礎レベル)プラス』選定校
 - における教育実践取組みの紹介(その 1)」
 - 「電気通信大学における実践型 UEC データサイエンティスト養成プログラム」 西野哲朗
 - 「早稲田大学における全学データ科学教育プログラム」 松嶋敏泰、野村 亮
 - 「滋賀大学データサイエンス学部の企業連携と数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
 - (応用基礎レベル+)について」 佐藤健一、市川 治
 - 「長崎大学情報データ科学部における数理・データサイエンス・AI 教育」 植木優夫
- ・私情協ニュース
 - ・事業活動報告 「令和 6 年度 文部科学省概算要求に対する情報関係補助金予算の要望
 - 「公益社団法人私立大学情報教育協会とは」など
 - ・事業活動報告 私立大学教員授業改善白書 (令和 3 年度の調査結果) 抜粋
 - ・投稿
 - 早稲田大学社会科学部「ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム」のカリ
 - キュラム改革と効果検証手法 早田 宰、上野 博、山田寛邦

大学教育と情報 (2023 年度 No.3 : 令和 5 年 12 月)

- ・巻頭言「新しい酒は新しい革袋へ」～都心型新キャンパス開学を情報教育の飛躍的発展へ 大西晴樹
- ・特集 「学びの質向上に向けた ICT 活用の取組み (その 2)」
 - 「生成系 AI と共生した文章表現基盤教育の実践：次世代医療人育成を目指して」 二瓶裕之、中山 章、木村 治、西牧可織
 - 「オンデマンド学修のデメリット軽減を目指して改善を重ねた『ブレンド授業』の効果」 浅原知恵
 - 「コロナ禍におけるオンライン・フィールドワークの新境地」 安齋 徹
 - 「生成 AI によるプログラミング・データサイエンス演習の学修支援」 倉光君郎
 - 「基礎化学実験における LMS を活用したハイブリッド授業の成果」 小池裕也、鈴木 来、小川熟人

「ICTを活用した日台遠隔授業における異文化理解力と英語発信力養成の取組み」 大和田和治
 「SE育成を目指した情報と看護によるオンラインでの大学・異分野間連携演習の取組み」
 小谷直樹、尾花将輝、杉川 智、佐野睦夫、足立安正、小堀栄子

・**数理・データサイエンス・AI教育の紹介**

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)プラス」選定校における
 教育実践取組みの紹介(その2)

「数理・データサイエンス教育における学部・大学院専門教育に対する北海道大学の取組み」 行木孝夫

「東北大学のAIMD 応用基礎教育」 早川美德、篠原 歩、鈴木 顕

「久留米工業大学の産学連携『地域課題解決型 AI 教育プログラム (応用基礎)』」小田まり子、八坂亮祐、河野 央

・私情協ニュース

・事業活動報告 「2023年度 私情協 教育イノベーション大会 開催報告」など

・募集

大学教育と情報 (2023年度 No.4: 令和6年3月)

・**巻頭言 『情報数理学部』『情報科学融合領域センター』設立雑感**

村田玲音

・**特集 「生成 AI を利活用した授業等の紹介と今後の授業の在り方を考える」**

「ChatGPTで英語教育の在り方を探求」

山中 司

「生成 AI (ChatGPT) を活用したグループワークにおける学生の学習体験と参加度の評価について」

高尾俊介、山下 香

「生成 AI の利用を前提としたレポート課題についての提案」

松本章代

「生成 AI による自己理解の深化」～学習成果物を活用したキャリア支援の可能性～

前田吉広

「私情協の短期大学コンソーシアム活動に生成 AI を導入した学びの成果」

～地域貢献支援事業の「高齢者支援事業」での試行～

三田 薫、及川麻衣子

「地域価値発見支援事業」に生成 AI を導入する学びの構想

衛藤大青、後藤善友

「生成 AI の利活用に留意することが望まれる観点の整理」

私立大学情報教育協会

・**数理・データサイエンス・AI教育の紹介**

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム (応用基礎レベル) プラス」選定校における
 教育実践取組みの紹介(その3)

「九州工業大学における MDASH プログラム」

江藤 宏、藤本晶子、宮野英次、齊藤剛史

「筑波大学理工学群におけるデータサイエンス応用基礎教育」

浦田淳司、巖 先輔、川島宏一

「大阪大学における数理・データサイエンス・AIプログラム」(工学部と基礎工学部を中心に)

鈴木 貴

「武蔵野大学データサイエンス学部におけるデータサイエンス・人工知能(AI)人材育成プログラム

清木 康、熊谷多加史

・海外ニュース

・私情協ニュース

・事業活動報告「大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～開催報告」など

・募集

・賛助会員だより

株式会社 NTT ExC パートナー

(2) インターネットによる情報公開・配信・意見収集

本協会の公益目的事業の活動を社会に紹介し、理解の普及を図るため、ホームページの枠組みを事業活動に連動できるよう、「望ましい教育改善モデルの探究」、「情報教育のガイドライン」、「高度な情報環境づくり」、「大学連携・産学連携の推進」、「教職員の教育力向上」、「高度情報化の支援」、「分野別研究発表の検索」を設け、事業活動としての成果物及び各種委員会の議事概要を公開した。また、事業ごとにインターネットで意見・要望を収集するため入力サイトを設け、事業の点検・評価・改善を行っている。